

令和2年度 しらかば地域包括支援センター自己評価報告書

自己評価実施日	令和2年12月18日
行政評価実施日	令和3年1月15日
運営協議会開催日	令和3年3月23日

包括情報	
法人名	社会福祉法人 苫小牧慈光会
責任者	松本 和久
所在地	苫小牧市しらかば町5丁目5番6号
連絡先	0144-71-5225

地域情報	
担当地区	はまなす町、宮の森町、柏木町、川沿町、桜坂町、しらかば町、日新町、字糸井287～446
高齢者人口	7,511 人(R2.10.1現在)
高齢化率	36.9 %(R2.10.1現在)
地域特性	昭和40年代から昭和50年代にかけて宅地分譲され、戸建てが多い地域である。双葉三条通沿いのエリアは高齢者にとって買い物や外出の利便性は高いが、通りから離れたエリアや宮の森町、桜坂町、はまなす町は自家用車を持たない高齢者にとっては利便性が低い。また、空き家が目立つ一方で市営住宅の建て替えや新しい宅地分譲等で、若年者の居住、定着もあり、地域のコミュニティが変容してきている状況もある。

職員体制	
○職種	○雇用形態
保健師または看護師 2 人	常勤職員 6 人
主任介護支援専門員 1 人	非常勤職員 人
社会福祉士 2 人	
その他 1 人	○常勤職員の平均勤務年数
	平均 6年

総合評価	
自己評価	行政評価
7月に管理者が変更となり、また8月に職員1名が病欠し、1名減で対応してきた。10月に人事異動で看護師が追加となり、落ち着かない中で業務を遂行してきた。コロナの影響により感染拡大防止に努めながら訪問等を行ってきた。人員が少ない中、予防プランの増加もあり、役割分担をしながら業務を進めてきた。研修等の参加も感染拡大防止のため、中止になるものが多く、研鑽の場が少なかったが、研修参加の機会があれば積極的に研鑽の場をもうけていきたい。	人員配置の影響により、今年度の取組みは縮小したが、3職種の専門性を踏まえ、職員不足の中でもできる範囲で努力したことを評価する。また、管理者を中心に適宜情報を共有しながら支援する体制が整っている。今後は、コロナ禍に合わせた活動計画を立てて取り組んでいただきたい。

評価項目		
1 運営体制		
(1)運営方針に沿った事業計画をたて、職員全体に理解・共有されている		
(2)委託業務の趣旨及び内容・進め方に対する共通理解に努めている		
(3)ミーティング等を計画的に開催し情報共有している		
(4)PDCAサイクルを活用した運営を行い、業務を継続的に改善している		
(5)職場内外の研修機会を確保し、内容の共有(研修内容のフィードバックや回覧等)をしている		
(6)個人情報含む記録物を適切に保管している		
(7)委託業務に基づく書類等を期日内に提出している		
(8)苦情の内容と対処について記録し、センター内共有し再発防止に努めている		
(9)プランナーの雇用等センターを適切に運営するための人員体制が整備されている		
(10)介護予防支援業務における利用サービス事業所に隔りが無い(占有率50%未満)		
(11)相談・面談室のプライバシーが確保されている		
(12)休日・夜間の連絡体制が整備されている		
	自己評価	行政評価
特記事項	毎日ミーティングを行い、ケースの報告や検討を行い、情報共有している。外部研修がほとんど行われず、研鑽の機会も少なかった。職員減の中で業務に追われ、研修の機会もなかなか作れなかった。	体制変更もあった中、体制を整えながら計画に沿った包括運営を行うための努力を評価する。各職員が協力し、更なる事業目的理解をすすめ、業務運営することを期待する。
2 共通の支援基盤構築		
(1)ホームページ等独自の広報活動及び取組報告を行っている		
(2)既存の社会資源やニーズの把握及び地域の実態把握を行っている		
(3)既存の社会資源を地域のニーズに応じて改善したり、開発に向けた取組を行っている		
	自己評価	行政評価
特記事項	初回訪問の際には、包括の業務内容の説明を行っている。町内会の会議等に参加する機会がなく、ニーズ把握や実態把握が出来なかったが、老人クラブや地域の会議等の再開時には参加し、把握していきたい。	個別のケースを通して包括業務の周知を実施している。コロナ禍における住民活動等の実態を把握するとともに、住民のニーズに応じた必要な社会資源の開発に向けた取り組みを期待する。

評価項目		
3 総合相談支援・権利擁護		
(1)相談では的確に状況を把握し、緊急性の有無を判断し、緊急性が高い場合には迅速に対応している。		
(2)継続支援のため、情報整理・分析により課題を明確にしている		
(3)相談内容およびその後の経過等が適切に記録・管理されている		
(4)困難事例は速やかに3職種の専門性をふまえて協議し、結果を記録に残している		
(5)主担当以外においてもケースの概要を把握している		
(6)センター運営全体に関する課題や地域の課題について定期的に情報共有し検討している		
(7)家族介護者に対する相談支援、情報や知識・技術の提供を行っている		
(8)成年後見制度の相談に適切に対応し、利用支援できている		
(9)高齢者虐待防止及び対応において、マニュアルに基づき適切に行っている		
(10)職員が消費者被害の動向を把握し、必要時関係者に情報提供している		
特記事項	自己評価	行政評価
	初回相談の内容は相談票を回覧し、各職員が概要を把握できるようにしている。困難事例に関して、毎朝のミーティングにて経過を報告し共有している。担当以外でも把握できるようにしている。	管理職を中心に、速やかに相談に応じていることを評価する。今後も3職種としての専門性を踏まえた協議を充実させるため、アセスメントなどの個々のスキルアップや終結を意識した対応を期待する。
4 包括的・継続的ケアマネジメント支援		
(1)医療機関や介護事業所等を把握し、連携体制が得られやすいような働きかけを行っている		
(2)介護支援専門員に対し、困難事例の同行訪問やサービス担当者会議への出席を通じたサポートを行っている		
(3)介護支援専門員の資質向上のため、研修会や事例検討会等行っている		
(4)定期的・効果的に地域ケア会議を開催し、顔の見える関係づくりを行っている		
(5)地域にある資源についての情報を把握し、いつでもその情報を提供できるよう準備している		
特記事項	自己評価	行政評価
	地域ケア会議は開催できず、関係づくりが出来なかった。また、コロナの影響により研修会を行うことが出来なかったこともあり、今後開催に向けて、方法を検討して行くことが必要。	関係機関との連携を図り個別支援に取り組んでいる。今年度地域ケア会議の開催が進んでおらず、進めることで地域課題を発掘し、地域づくりに発展させることを期待する。

評価項目		
5 介護予防マネジメント・介護予防支援		
(1)介護予防の取組を生活の中に取り入れられるよう支援を行っている		
(2)要支援状態の悪化の防止、あるいは改善を目指した支援を行っている		
(3)非該当者や介護予防事業の参加につながらなかった人に対し、本人の状態確認を行い、適切な支援や情報提供をしている		
特記事項	自己評価	行政評価
	個々のケースに応じ、介護予防の必要性を説明し、悪化防止を心がけて支援を行っている。コロナ禍の中、外出の機会の減少が見られており、自宅で出来る運動など指導した。	閉じこもり傾向にある利用者に対し、自宅でできる運動の紹介等介護予防を意識した支援を行っている。今後も職員間のスキルアップで個別アセスメントを充実させ、適切な支援に繋がることを期待する。
6 認知症施策の推進		
(1)必要な人を認知症初期集中支援チームにつなげ、適切に支援している		
(2)サポーター養成講座や搜索模擬訓練等住民への正しい知識の普及を図っている		
(3)ネットワーク会議や地域ケア会議等を認知症の方を支える仕組みづくりに活用している		
(4)認知症地域支援推進員と連携し地域づくりに向けた取組を行っている		
特記事項	自己評価	事業評価
	ケース対象となりそうな方がいた際には、職員間で情報共有を行い、検討した上で初期集中チームに繋げている。推進員との連携を図ることが少なかったこともあり、今後は連携を図りながら、地域づくりに取り組んでいきたい。	認知症サポーター養成講座等を通じて積極的に認知症についての普及啓発に取り組まれている。今後、地域ケア会議を通して地域課題を把握するとともに、認知症地域支援推進員の役割を意識したうえ、連携した地域づくりにつながるよう期待する。
7 在宅医療・介護連携推進		
(1)医療機関・介護サービス資源・情報を把握している		
(2)在宅医療・介護連携に関する相談支援が効果的に行われている		
(3)医療機関や介護事業所を訪問し、連携体制を得られやすいような働きかけを行っている		
特記事項	自己評価	行政評価
	情報共有を図り対応している。コロナの影響もあり病院訪問が難しい場合は、電話等で連携をとっている。必要時に通院同行を行う情報把握に努めている。	医療機関や介護関係機関等との連携を意識して取り組んでいる。今後も各関係機関との連携を行い、より良い支援につなげることを期待する。

評価項目		
8 生活支援体制整備		
(1)総合相談や地域ケア会議等を通じて地域課題や資源把握に努めている		
(2)生活支援コーディネーターと地域における高齢者ニーズや社会資源について協議しているか		
特記事項	自己評価	行政評価
	地域ケア会議が行えていないこともあり、地域課題の把握までは出来ていない。生活支援コーディネーターと協働しながら対応するケースは増えている。今後も連携を図り、地域づくりに努めていきたい。	生活支援コーディネーターと連携し、個別課題の解決に取り組んでいる。今後は、生活支援コーディネーターとの連携強化、地域ケア会議等を通じて積極的に地域課題を把握し、生活支援ネットワーク構築に努めることを期待する。
9 一般介護予防事業		
(1)介護予防の重要性や一般的な知識、介護予防事業に関する情報について積極的に普及啓発している		
(2)介護予防教室の参加者が、自らの機能を維持向上する努力ができるようわかりやすい情報の提示や助言を行っている(コロナ禍における自粛対応含め)		
(3)介護予防教室が終了したあと、対象者の心身の状況等把握し適切に評価している		
(4)評価後もフォローが必要な対象者を把握し、フォロー継続できている		
(5)地域の関係機関やボランティア団体等の定例会等に参加し、介護予防に関する地域情報を把握している		
(6)地域の関係機関やボランティア団体等からの出前講座等の依頼に対し積極的に協力している		
特記事項	自己評価	行政評価
	担当ケースに関し、介護予防について説明を行っている。また新規ケースに関しても、情報提供を行っている。看護師が町内会のふれあいサロンに参加し、予防活動の普及、講話を行っている。介護予防教室も再開し、都度参加者の状況確認を行っている。	個別支援や介護予防教室、依頼の健康講話を通して介護予防の重要性について積極的に普及啓発している。今後もコロナ禍の影響を踏まえた市民への介護予防普及啓発への積極的な取組を期待する。

○評価基準

- ◎ 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施した上に独自の取組等優れた業務を実施できた
- 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施している
- △ 評価項目や仕様書等で定められた業務を何らかの理由により一部実施できなかった
- × 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施できず、改善が必要

1 事業年度計画のうち、特に重点的に行った事業及び内容
<p>認知症初期集中支援チームは当初予定の半数以上を実績をカウント出来るに至った。医療との連携に関しても、情報提供や受診同行を行い連携を図ることができた。</p>
2 今年度事業の達成状況及び成果
<p>認知症初期集中支援チームは当初予定の半数以上を実績をカウントできた一方で、地域作りに関して、コロナ禍の中で、研修会や会合等が開かれなかった事もあり、積極的に連携が取れなかった。予防教室に関しては、コロナの影響により中止になった中、参加者に自宅で出来る運動のパンフレットを配り、運動の継続が出来るように指導を行った。総合相談に関して、相談内容を職員全員で確認を行うようにし、役割を分担し進めてきた。</p>
3 達成できた又は達成できなかった原因
<p>認知症初期集中支援チームに関して、ここ数年の経験も踏まえ、職員間でケースの検討を行い結びつけることが出来ている。 職員の異動や病欠による職員不足、総合相談、予防プランの増加も顕著で、委託業務の円滑な遂行が出来なかった。</p>
4 課題及び今後の取組
<p>職員体制を整え、委託業務の遂行し、特に地域づくりの関わりを積極的に行っていきたい。地域・行政を含め、様々な団体との関わりを密にしていき、地域ケア会議の開催などを通じ、地域の課題発掘・解決に結び付けていけるようにしていきたい。</p>